

1 | 検討中の案：年金アプリ(公式)で試算し、その結果をファイルで民間アプリへ連携

政府は、今後1年程度をかけて「年金アプリ(公式)」を開発する。検討中の案では、パート労働者が厚生年金に加入する場合や年金の受給開始時期を変更する場合(繰上げ/繰下げ受給)について、個人の年金記録に基づいた年金額の簡易試算を可能にする*2。試算結果をファイルに出力し、家計簿などの民間アプリとの連携も可能にする方針である。

現在でも、日本年金機構が提供するWebサービス「ねんきんネット」で試算可能だが、同アプリでは「ねんきん定期便」に印刷されたQRコードを読み取るため、ユーザー登録不要で試算が可能になるとみられる。

図表1 年金アプリ(公式)の利用イメージ(検討中の案)



資料:年金広報検討会(2020.7.27)資料2-2 p.1より筆者作成。

図表2 QRコードに記載される情報(検討中の案)

- 年金見込額
 - ・老齢基礎年金、老齢厚生年金
- 加入実績
 - ・直近の加入制度(国民年金、厚生年金)
 - ・直近の標準報酬月額、標準賞与額
 - ・直近記録の年月

注1:「ねんきん定期便」に記載されている情報が記載される。
資料:年金広報検討会(2020.7.27)資料2-2 p.2,3より筆者作成。

2 | 課題1：専門家への相談等で利用できるよう、QRコードや試算の仕様等を民間に提供

個人で試算できても十分な活用は難しく、ファイナンシャル・プランナーや金融機関の窓口などに相談するケースが想定される。しかし、試算結果が個人の端末内でしか利用できなければ不便だろう。出力されたファイルの送付も考えられるが、送付操作の難しさや誤送のリスクが課題となる。

そこで考えられるのが、民間のアプリで公式アプリと同様の試算ができるよう、QRコードや試算の仕様等を民間アプリの開発者へ提供することである*3。相談先のアプリ等でQRコードを利用できれば、大きな画面での分かりやすい説明や、年金額の試算だけでなく生活設計(ライフプラン)の作成などにも活用できるだろう。また試算の仕様等が提供されれば、年金制度に詳しくないアプリ開発者も参入しやすくなり、より分かりやすい図示などが期待できよう。

3 | 課題2：利用頻度の向上に向け、毎月の記録更新の通知や、アプリ自体を「ねんきん定期便」に

検討会では、「年金アプリ(公式)」の利用頻度を高める方策を求める意見も出た。現時点で検討されている同アプリの機能は、前述した試算以外に、厚生労働省の「年金ポータルサイト」や今後設置予定の制度改正の解説ページとの接続である。「年金ポータルサイト」には新着情報の欄がなく、制度解説は順次の公開が難しいが、既存の内容を連載形式で紹介して通知するなどの工夫は可能だろう*4。

また、自分自身のこととして関心を持ってもらうために、「ねんきん定期便」の送付の通知(開封の勧奨)も考えられる。現在の検討案では利用者の誕生月が特定できないため、通知の中に「〇月生まれの方に」などと記載する必要がある。アプリに「ねんきんネット」への接続機能が追加されてユーザー情報が登録されれば、毎月の加入記録の更新ごとに通知することや、公式アプリ自体を「ねんきん定期便」として利用し、アプリに表示されたQRコードを民間アプリで読み取ることなども考えられる*5。

*2 検討会では言及されなかったが、働きながら年金を受給する場合(在職老齢年金)や保険料の見通しの試算も、重要であろう。

*3 制度変更等に伴うQRコードや試算方法の更新に対して民間アプリが適切に対応できるよう、単に仕様を公開するのではなく、適切に利用・更新することを契約した上で仕様を提供することや、アプリ同士が情報を連携する仕組み(APD)を活用して読み取りや試算の部分は日本年金機構が管理・更新することなども、考えられる。

*4 また、本年5月の成立後に開設された制度改正に関するFAQなどは、制度改正がメディアで取り上げられている時期に通知されれば有益であろう(https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000147284_00006.html#h2_free3)。

*5 現在は、20歳到達者に「ねんきんネット」にアクセスできるQRコードなどを案内する葉書で送付されているが、年金手帳の廃止を考慮すれば、2022年度以降は年金アプリ(公式)を案内して年金手帳の代替として利用してもらうことも考えられる。